

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地域の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として気象庁が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

“オヤジ”より怖い“雷”

小学3・4年生のクラスで、「雷がキライな人、手を上げて！」と問うと、ほぼ全員がさっと手を上げます。体験談を勝手に話し出す子も何人かいて、話は盛り上がっていきます。大人でも“雷嫌い”はかなりいるようで、雷は嫌われ者のようです。突然、浴びるような稲光や耳をつんざく雷鳴を体験すると、強烈な印象となって記憶に残っていくようです。

積乱雲の中の氷の結晶や雨粒は互いに触れ合うことによって電気を帯びていきます。空気は本来、電気を流さない“絶縁体”なのですが、非常に高い電圧、1メートル当たり約50万ボルト以上の電圧がかかると瞬間的に“絶縁破壊”が起き、光を放ち電流が流れます。これが大気中で起きると“電光(稲妻)”です。大電流が流れ、空気は一瞬のうちに約3万℃と推定される高温になり、急激な熱膨張を起こします。これらの現象が終わるまで約千分の1秒、この空気の膨張で生じる衝撃波が“雷鳴”です。これを遠くで聞くと、いろいろなところでの反射があって“ゴロゴロ”ですが、近づくにつれ“バーン”とか“パン”と、短く大きな音になっていきます。



出典：気象庁HP



皆さんに質問 どれが大丈夫？



- (1) ゴムの長靴やレインコートを身に付けていれば大丈夫
- (2) 腕時計やアクセサリーなどの金属を外せば大丈夫
- (3) 雷が光ってから音がするまで、10秒以上あれば、まだ遠くだから大丈夫
- (4) 高い木の下に逃げれば大丈夫

ここで皆様にご質問。雷の気配を感じたとき、どうすれば大丈夫でしょうか。左の質問にお答えをいただけてから、先をお読みください。

雷は、所を選ばず落ちます。まず、近くに高いものがあると、これに落ちます。グラウンド・ゴルフ場・屋外プール・堤防・河川敷・砂浜・海上・山頂・尾根など、周りよりご自身が突出していると感じるところでは、要注意です。このようなところ

で、ゴルフクラブや釣り竿などを身体より高く突き出すのは危険です。雷鳴が聞こえたらすぐ避難です。これからの季節、屋外でイベントなどを開くにあたっては、天気予報で雨の有無と共に、雷の有無についてもご確認をお願いしたいと思います。

雷から避難する場合、鉄筋コンクリートの建物・自動車・バス・列車の中が安全です。電気を流す導体に囲まれた内部には、電気が侵入できない性質があるからです。例えば、鳥かごに落雷があっても、中の鳥は感電することなく安全だと解説されることもあります。木造建築の内部も基本的には安全なのですが、天井・壁から1m以上離れるとより安全と言われています。



さて、先ほどの質問のお答えはどのようになったでしょうか。“先にお詫びいたします！”答えは、“どれも大丈夫ではない”が正解です。決して雷を甘くみないようお願いいたします。